

広土会新聞

第20号

2016.3.1 発刊

発行所 広島工業大学 広土会
〒731-5193 広島市佐伯区三宅2丁目1-1
TEL 082-921-3121

土木系学科設立 50 周年を迎えて



学校法人鶴学園 理事長 総長
広島工業大学 学長

鶴 衛

広島工業大学工学部の土木系学科が設立50周年を迎えました。まずもって、学科の発展に尽くされた諸先輩、全国各地で活躍されている卒業生の皆様、そして現役の教職員、学生諸君と喜びを分かち合いたいと思います。この半世紀を振り返ってみますと、土木系学科の今日があるのも、ひとえに関係する皆様のご努力、頑張り、さらにはご指導とお力添えがあったからこそと、つくづく思います。あらためて深く感謝を申し上げます。

学科が開設された昭和40年当時は、折しも高度経済成長期の最中でした。道路や橋、港湾、トンネル、鉄道、空港…。インフラ整備は急激に進み、卒業生の活躍の場は一気に広がりました。その後、オイルショックで大型公共事業は凍結・縮小を余儀なくされ、今度は昭和60年代のバブル経済です。土木事業を中心に公共事業が拡大し、土木業界は絶頂期にありました。そしてバブルが崩壊。景気の長期低迷期に入り、今日に至ります。

公共事業の減少で業界は淘汰を強いられ、競争激化のあまり官公庁との癒着や談合に対する社会的な批判が高まりました。加えて労働条件の悪化などにより、“きつくて危険”な職業として土木を志望する若者も減少しました。土木系学科にとって、まさに“時代に翻ろうされた50年”でした。学科名が当初の「土木工学科」から「建設工学科」、

それから「都市建設工学科」「都市デザイン工学科」へと変遷したのも、社会経済情勢の影響が少なからずありました。

しかし、考えてみますと、人間が生きていく上で土木技術が消えてなくなることはありません。道路や橋は必要ですし、電気や水などのライフラインも欠かせません。土木技術者の使命が、安全で住みやすい社会基盤づくりにあることを考えれば、自然災害や環境保全への対応も求められます。

近年、平成23年3月の東日本大震災をはじめ、自然災害の激甚化が顕著です。集中豪雨が多発し、火山活動も活性化しています。記憶に新しいところでは、平成26年8月の広島土砂災害で土石流が山麓の住宅地を直撃し、74名もの尊い命が奪われました。本学の先生方も被災状況調査等に協力されました。

我が国は現在、東日本大震災の復興、さらには平成32年の東京オリンピック・パラリンピックのインフラ・施設整備が喫緊の課題になっています。それに加え、多様で頻発する災害や巨大地震への備え、老朽化したインフラや環境への取組みも急務です。さらに人口減少対策や東京一極集中からの脱却を目指す「地方創生」も重要なテーマです。安全・安心で持続可能な社会を構築してゆくために、土木技術の果たす役割が一層大きくなると考えるゆえんです。

こうした時代の流れに呼応し、防災や環境にも配慮した新たな土木工学の技術を展開できる高度技術者を育成する必要性が高まっています。そこで本学は平成28年度、「都市デザイン工学科」を廃して新たに、景観や防災、資

源等の視点からもアプローチできる新学科を設置します。学科名は「環境土木工学科」です。設立当初の学科名である「土木工学科」に「環境」を結合したネーミングです。久しく消えていた「土木」の文字を“復活”させます。

そこには、初心に帰って校祖鶴虎太郎先生の遺訓である建学の精神『教育は愛なり』、本学園創立者鶴裏先生教育方針『常に神と共に歩み社会に奉仕する』に則った教育を実践し、倫理観ある土木技術者を育成するとの決意を新たにしようとの「想い」を込めています。

もう一つ“原点回帰”の言葉を紹介します。「土木工学科」初代主任教授であられた桜井季男先生が常々言われていた言葉です。それは『ともに協調して事に当たれ』と『打てば響く土木技術者たれ』です。この2つを広工大土木のあるべき姿として明示され、事あるごとに学生に叩き込まれたそうです。その“広工大土木魂”を今まで以上に発揮させたいと考えています。

そこで頼りになるのが、同窓会組織「広土会」の存在です。卒業生や教職員、現役学生で構成し、会員数は4,500名を超えます。全国各地に支部を巡らせて強力なネットワークを築き、活発に交流を続けておられます。頼もしい限りです。これからもご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

そして末筆になりましたが、土木系学科の卒業生の皆様、そして学科の発展に尽くされました教職員、関係する皆様方の益々のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、私のご挨拶といたします。

総合建設業



占部建設工業株式会社

代表取締役 占部 誠

本社 〒720-0816 福山市地吹町18番16号
TEL(084)922-1254 FAX(084)922-1276
広島支店 〒738-0004 廿日市市桜尾二丁目8番3号
TEL(0829)32-1224 FAX(0829)32-8779
井原営業所 〒715-0022 井原市下出部町二丁目22番4号
TEL(0866)67-1300 FAX(0866)67-1215
広島営業所 〒731-5135 広島市佐伯区海老園4-4-44
TEL(082)921-2617 FAX(082)921-5443

KATO
Construction Co., Ltd.



株式会社 加藤組

〒728-0013 広島県三次市十日市東一丁目8-13
TEL(0824)63-5117 FAX(0824)63-5100
http://www.kato-gr.com



株式会社 神崎組

取締役社長 神崎 文吾

本社 姫路市北条口三丁目22番地
TEL 姫路(079)223-2021(代表)
FAX 姫路(079)281-8191
支店 大阪
事業所 敦賀・三木・但馬・岩国

特 別 寄 稿



土木系学科設立50周年 記念に寄せて

広島工業大学

名誉教授 鈴木 健夫

土木工学科設立以来50周年になり、伝統は力なりといわれますが、有名になり、おめでとうございます。

私も広島工大を退職して十余年になりますが、この機会に初期のこと、寝ていても走馬灯のように思い出されますので、その一端を述べてみたいと存じます。

1. 創設時の土木教室

私は、広島大助教授になったのは、昭和44年4月ですが、その前1年間1期生の3年時の土質工学の講義を頼むとのことで非常勤として前任校の大阪市立大より通いました。2週間毎ですが、前夜、寝台列車瀬戸で出発し、3コマの集中講義(1・2、3・4、昼食、5・6)を行い、15時半より土木の教室会議に出席し、最終の特急で帰阪しました。

教室会議は構造の櫻井教授、皆田助手、コンクリートの河内教授、測量の講師(昭和43年度で退職)、それに私も加えて頂き、3号館の土質実験の準備室で行われ、冬は石油ストーブを囲んでの寒々とした風景でありましたが、議題は土木の創設期なので、スタッフ、学科目、教室、実験室、実験器具整備、学生の指導など色々多く、2～3時間の熱をおびた会議があつという間でした。土木のモットーは櫻井先生提案の「協調性がある 打てば響く人材作り」であり、これを目的とした教科の編成や内容の充実に努力しました。

2. 学生運動

学生運動は安保反対について、東京、大阪で昭和43年に始まり、各大学は学生ストで占拠され、教育などできない状態になり、広島大も心配していましたが、何も起こらずほっとしていました。昭和44年9月に学生運動が発生し、約100名位が広場に集合し、アジ演説で氣勢をあげ始め、中国新聞の記者も取材を行い、これは記事になり、大事になったらとんでもないことになるぞと心配しましたが、実行行使にいたらず、すぐに秋休みで学生が集まらなくなり立ち消えとなりました。

3. 学生の就職

工料系の大学の魅力は卒業後の就職が良いことなので、この点についてもっとも配慮しました。1期生は60名位でしたので、櫻井、河内先生の努力で県内中心にそこそこに就職が皆決まり、ほっとし、また、会社からの入社後の評価も良好でした。

2期生120名の就職について、1期生の評価に自信を得て、より評価の高い東京、大阪の大会社へと範囲を広げて、就職開拓を行い、新設校にもかかわらず採用して頂きました。

土木は毎年百数十名の卒業生を出し、全員より良い会社に就職させるには強力縁故を得る必要があり、また各会社は毎年採用するとは限らないし、不況の時もあるので、その場合でも全員就職させるシステム築きあげたいと考えました。そこで、所属の学会、協会の新技術普及のための委員会に積極的に参加し、約2年位の間の討論や本の作成などでの意見交換で各会社の代表の課長クラスの委員と親密になり、頃合いを見計らって学生の採用を依頼し、その結果、皆、社内で段取りをつけて頂けた。一度 門戸が開かれれば、次年度以降も続くようになる。そして、卒業生が入社すれば、やがてその卒業生が窓口となり、後輩を引き受けてくれるようになり、学生の就職は極めて有利に展開する。

4. 協調性

土木は巨大構造物を多数の人が長年月をかけて、一致協力して徐々に築きあげてゆくので協調性が大事であり、そのために毎学期末のコンパ、現場見学会、3年時の学生実習、卒業旅行などお互いの親密性を図ってきた。大学においてよき友を得ることは大事なことで、その機会を多くし、卒業後も続くように、人生が豊かになるように図ってきた。広島会活動も協調性の豊かさのバロメーターであり、広島会全体、卒業期ごと、地域ごと、会社ごと、との種々の形態で実施され、開催間隔もまちまちであるが連携と多数の出席者を得て楽しく続き、間もなく広島会も50周年記念が行われる。

5. むすび

私は85歳になりましたが、元気で週1回現場に通っています。環境・地盤改良研究の知識を活用して、先端技術の開発に努力し、学会に成果を発表し、特許「汚染土壌の調査方法」をこの7月に取得しました。

卒業生の皆様、人生が長寿になったのですから、会社が停年になってもまだまだ頑張れます。身体の内自由な間は有意義に共に頑張りましょう。

終わりに臨み、広島工大土木系学科の永続、更なる発展を期待しています。



2H3C

広島工業大学

名誉教授 二神 種弘

広島工業大学(以下、広島工大と記す)の土木系学科の設立50周年を迎えられたことを、心からお喜び申し上げます。

私は、設立時の苦勞をすることなく、広島工大の土木工学科が設立されて約10年経った昭和51年度に就任し、平成24年度までの36年間もの長期にわたってお世話になりました。また、この間平成16年度から18年度と平成18年度から19年度の2度、主任教授を拝命致しました。

就任時、学生がとても誠実で意欲があり、大学の教育理念が素晴らしい(建学の精神「教育は愛なり」・教育方針「常に神と共に歩み社会に奉仕する」)と感じました。また、平和都市ヒロシマの瀬戸内海を臨む緑の美しい大学だと思いました。人に惚れる、土地に惚れる、仕事に惚れる、この3つのことに惚れることを3惚れと言いますが、まさに3惚れで、私はここで、私学の教育に専心努力して参ろうと決心致しました。

在職していた前半は、時代も経済の安定成長期で、大学は今よりものんびりしており、おおらかに学園生活を送っておりました。学生と一緒にソフトボールをしたり、硬式野球場をランニングしたりしたこと、教職員のご家族と一緒に沼田校舎でマツタケ狩りをしたこと、学園のテニス大会に参加出場したこと、広島校舎で第5回の境界要素法国際会議やIMAKS/IFAC分布定数系の国際会議のお世話をしたことなど、多少の苦勞も楽しい思い出として残っております。

就任して最初の10年間位に、私は、「2H3Cが、広島工大の土木系の学生にとってとても大切な目標とすべきことである」と、よく言っておりました。2Hとは、土木の仕事に従事する者は気が優しくて(Heart)、力持ち(Health)でなければならないということです。3Cとは、1つ目は、土木工学の技術者としてプロ意識を持ち、専門性を高めることです。英語で土木工学のことをCivil Engineeringといいます。2つ目は、Computerに強くなることです。3つ目は、郷土を愛することです。Carp(広島東洋カープ)を応援するのもその一つだということです。Computerは著しく進歩しましたが、私は、これらの5つのことが今も大事な目標であると思っています。当時の

学生に「これら5つのことを答案の余白に書いておれば、10点プラスするか、単位は出す。」と言っておりました。ところが、これを実際に書いている学生の答案は、意外にも十分単位の取れる良くてできた内容でした。

36年間の後半は、大学を取り巻く状況がいろいろな面で厳しさを増しました。バブル経済の崩壊に続く長い不況の時期に入ったこと、就職氷河期とも言われた就職難の時期が長く続いたこと、少子高齢化の進行、公共事業への批判など様々な問題が顕在化しました。大学では、受験者の土木に対する志望が低下しました。ただ、私は就職委員を長く続けて参りましたが、広島工大の土木系の学科においては、この就職難の時期にも比較的順調に就職が決まり、進路で苦しむことなく過ごすことができました。これは、当時の学生が努力してくれたことにもよりますが、卒業生の皆様が、それぞれの職場でしっかりと職責を果たされ、社会に貢献して来られたお蔭であると強く感じました。非常に有難いことでした。

現在は、東日本大震災からの復興や社会資本の維持管理、防災、環境保全などのため、土木が重要であることが再認識されて来ました。土木の求められる時代です。皆様には、どうか、その力を社会に役立て、将来に向かって頑張ってください。私は現在定年退職をして、2H3Cの幾つかは怪しくなりましたが、土木系学科とCarpの応援には一層の思い入れをしています。

最後に皆様の益々のご健康とご活躍を祈念し、広島工大の土木系学科の一層のご発展を心からお祈り申し上げます。



50周年記念に寄せて

広島工業大学

名誉教授 島 重章

学科設立後の4年目の春に、私は広島工業大学へ着任いたしました。助手であった私は昭和43年4月から4年生(第1期生)の土質実験の指導を担当いたしました。元気の良い学生たちに混じって、久しぶりに学生の頃に戻ったようなホッとする感覚を今でも覚えています。その当時は、東京オリンピックが昭和39年に終了した余韻がまだ残っており、当時は日本列島改造論が世論として唱え出されてきた頃で、土木の景気が徐々に上昇期を迎えつつあった頃でした。当時の教室は桜井季男教授と河内清彦教授の両先生の舵取りにより、1期生が初の卒業生として全員が就職先を決定するなど、両教授によって昭和40年に開学された土木工学科の素晴らしい旅立ちでありました。

後に続く後輩たちは、元気ハツラツとした気質を受け継ぎました。その当時の専任教員は、両教授の他に原田教授、岡野助教授、鈴木助教授および皆田助手と私の7名の教員構成の中で、学生たちの何事にも積極的で闊達な気質を育てながら、素晴らしい環境づくりが形成されてきました。その中でも広島会の設立は、学生たちの活動の場として、大きな存在であったと思います。教員と学生の関係や、卒業生同士の連絡網など、土木工学科の存在を内外に示す素晴らしい絆を構築する礎となって今に継続しています。

私はその後、本学において44年間に渡り勤務させていただきました。その間に世の中の変遷は大きく、昭和52年のオイルショックや世相の変動の中で、全国に展開した新幹線建設や高速道路網、本州四国連絡橋等のビッグプロジェクトの建設と、その後の土木事業の変動の中で、本学においても土木工学科の名称変更が余儀なく成されてきました。

本学科に入学してきた学生たちは、毎日の大学生活のなかで受けた教育指導の中で、更に2年間の修士課程を学んだ研究指導の中で、登っていく三宅の坂の上に目指す土木工学への道を、これからも見詰めて登って行くであろうと確信しています。

心の映像カタチにします
建設クリエイター

総合建設業



株式会社

栗本

代表取締役社長 前川 拓也

〒733-0035
広島市西区南観音7丁目14番20号
TEL (082) 293-8500
FAX (082) 295-8231
【営業所】 岩国

http://www.kurimoto-gr.co.jp



株式会社 鴻治組

〒736-0082

広島市安芸区船越南一丁目2番6号

TEL : (082) 822-5211

FAX : (082) 824-0675



山陽工業株式会社

SANYO CONSTRUCTION CO. LTD.

広島市中区十日市町1丁目1-9 〒730-0805
TEL (082) 232-6471 FAX (082) 291-2233
http://www.landingsanyo.co.jp/



着任時の思い出と 次の50年に向けての期待

広島工業大学
名誉教授 中山 隆弘

創立 50 周年誠におめでとうございます。

私は、学生として 9 年間、助手として 1 年間在籍していた大阪大学から、昭和 49 年（1974 年）4 月に、土木工学科初代主任教授を務めておられた桜井季男先生のお誘いを受けて着任し、平成 25 年（2013 年）3 月に定年退職するまでの 39 年間で広島工業大学のお世話になりました。その間、いちいちお名前を挙げるができない位多くの方々にお世話になりました。本紙面をお借りし、改めて篤く御礼を申し上げます。

今振り返ってみれば、着任当時は教育・研究上の物理的環境はお世辞にも良いとは言えず、研究室も構造力学担当の前任者である原田先生が使っておられたスチール製の事務用机と書庫、その他はシンプルな応接セット（小さなテーブルと椅子が 2 脚）のみでした。しかし、それよりもっと驚いたことは、当時は卒業研究を行う学生の部屋が無かったことで、新参者ではありましたが、教室会議でその必要性を強く訴えさせていただきました。2008 年末に完成した Nexus21 をはじめ、数々の立派な施設の整った現在の大学で教育、研究に携わっておられる先生方には想像し難いことかもしれません。

また、着任早々、近隣の国立大学の教授から、「中山さん、自分は広島工大をまだ大学としては認めていないよ。」と言われて愕然としたことを 40 年以上も経った今でも鮮明に覚えています。ただ、その教授の一言は、「そう思われているのであれば、何とかして広島工大の土木工学科を大学の土木工学科として認められるようにしたい、でなければ学生諸君に申し訳ないではないか！」と決意する大きな切掛けになったように思っています。大阪大学を去るとき、「恐らく研究のアクティビティは阪大の人達の 1/3 ～ 1/4 位になるだろう。」と覚悟を決めていたものの、正直、広島工業大学での努力目標はかなり漠然としていたので、逆にそのことが私の初心となり、以降、「多少研究のアクティビティが落ちても、教育と研究とを両立させる」ことが、在職中変わることはない私のモットーとなりました。

もっともそのことについても、親しい別の国立大学の助教授から、「与えられた時間はお互い一日に 24 時間しかありませんから無理では？」と厳しい一言を頂戴してしまいました。極論かもしれませんが、事実、教育と研究との両立という点で、「どちらももう少し頑張れたのではないか？」との悔いが無くはありません。ただ、卒研生、大学院生として構造研究室で共に学び、研究してくれた多くの諸君が、現在、官民学場でそれぞれ活躍してくれていることは、私にとって大きな喜びであり財産です。

さて、今日まで広島工業大学の土木系学科の学科名称は土木工学科（1965 年 4 月～）、建設工学科（1997 年 4 月～）、都市建設工学科（2006 年 4 月～）、都市デザイン工学科（2010 年 4 月～）、そして、来年 4 月に開設予定の環境土木工学科と時代にに応じて変わってきました。しかし、その教育目標は、卒業後土木事業の一端を担いたいという誇り高い志を持つ学生諸君に、種々の社会基盤施設を守り、新たに造るために必要な基礎的学問や技術を修得させることにおいて変わりはないものと確信しています。

創立 50 周年の年に当たり、次の 50 年後には土木系学科 100 周年記念事業が盛大に行われることを切に願っています。申すまでも無く、インフラの重要性は未来永劫決して変わることはないのですから。

卒業生寄稿



広土会との関わり

広土会 広島支部長 13 期生
橋國 雅文

広島工業大学土木系学科の設立 50 周年にあたり、心よりお祝い申し上げます。

私は、昭和 52 年に入学しました。その頃の広土会は、学生会員による学内での行事があった関係か、同窓会とは別に、学生の先輩と後輩とが様々な形で繋がり、体育祭や大学祭などで皆が一体となって盛り上がっていたように思います。特に、体育祭はいつも学科優勝を目指し、団結して大いに盛り上がっていたことが印象に残っています。

クラブ活動に参加していなかった私は、2 回生と 3 回生の時、広土会の学生幹事として、現場見学会の手配や大学祭の学科展の準備などを手伝っていました。その当時は、高速道路やダムなど建設中の大規模な土木工事の現場が数多くあり、30 年以上も前のことなので、どこの現場に見学に行ったか記憶は定かではありませんが、見学先の調整、参加者募集、貸し切りバスの手配などの段取りを行い、色々な意味で良い経験をしたと思っています。

大学祭では、当時建設中であった、大三島橋の模型を先輩と一緒に制作したこと、五日市町の人口推計をするための電算プログラムが作れなくて、先輩にお願いして助言を頂いたこと、また、後夜祭の屋台で焼き鳥が上手くできなかったことなど、懐かしく思い出されます。

最近では、学科生が少ないからか、時代なのか、広土会の会計報告を見ても学生援助金は使われず、学生会員独自の活動はほとんどないと聞いており、少し勿体ないような気がしています。

昭和 56 年の大学卒業後、勤務先の広島市役所では、入庁数年は、広土会が集まりがありましたが、その後は、そうした集まりもほとんどなくなり、広土会の行事に関わることはなくなっていました。卒業後に広土会のお手伝いをさせて頂くようになったのは、平成 20 年の広土会創立 40 周年記念事業で実行委員になってからで、現在は、不肖ながら広島支部長を務めさせて頂いています。

現在の建設業界は、スクラップ＆ビルドの時代から、施設の老朽化対策、長寿命化などストックの時代と言われています。土木工学の分野は多岐にわたりますが、これからの時代には、1 つの分野に留まることなく、幅広い分野との融合が必要になるため、様々な分野の人との繋がりが非常に大切になると思います。

3 年後の平成 30 年には、広土会も節目の創立 50 周年を迎え、記念事業の開催を計画しています。この記念事業に全国から様々な分野で活躍されている多くの会員の皆様に参加いただき、会員相互の繋がりを広げ、広土会の更なる発展のため、大いに盛り上がるよう御協力よろしくお願い致します。

最後になりましたが、半世紀の長きにわたり、土木系学科を維持し、我々卒業生を学生時代から暖かく御指導して頂いた先生方に感謝するとともに、土木系学科が今後とも益々発展していくことを心から祈念しております。



土木系学科設立 50 周年 に寄せて

広土会 関西支部長 14 期生
川岡 靖司

土木系学科設立 50 周年おめでとうございます。

私は昭和 57 年卒業の川岡です。日本橋梁（株）に勤務して 33 年が経ちました。平成 22 年からは広土会関西支部長を仰せつかっています。関西支部では、1 期から 42 期の関西在住の卒業生をメンバーに、4 月の夙川での花見と秋の総会により懇親を深めています。

平成 23 年 10 月に開催した関西支部総会には、大東先生に出席頂き、新講義棟 Nexus21 をはじめとする学内の様子をお話いただきました。これを聞いた関西支部のメンバーは 2 期生から 42 期生までの世代差があったことから、学食環境の違いで大いに盛り上がりました。これからの卒業生は Nexus21 での学生生活の話をするのでしょうから、大学での環境は我々古い世代とは大きく異なることが想像できますが、設立 50 周年という長い歴史を考えると当然のことと思われます。

さて、私が入学してまもなくの講義（オリゼミという名称だったと思います）で、当時の主任教授である鈴木先生から、『土木工学というのは英語で Civil Engineering といい、市民の工学です』といったお話を聞いた記憶があります。学科の名称は時代に依じて変わっていますが、土木系学科の教育は、我々市民が安心して生活できる基盤としての「社会インフラ」に関する知識・技術を習得させていることに一貫していると思います。我々卒業生は、「社会インフラ」の建設・維持のハード、計画・運用のソフト、様々な立場で「社会インフラ」に携わっています。これからも『市民の工学』として社会に求められる技術者を育てる教育の続くことを祈念しております。



土木系学科設立 50 周年 記念に寄せて

広土会 広島西支部長 12 期生
長谷山 弘志

土木系学科設立 50 周年、心よりお喜び申し上げます。平成 26 年度より広土会広島西支部の支部長を原田忠明前支部長（9 期）から、引き継ぎました 12 期生の長谷山と申します。この大きな節目をこのような立場で迎えさせて頂き、誠に光栄に存じます。平成 13 年に発足した広島西支部も、今年で 14 年目を迎えますが、これまでの諸先輩方の功績を礎として、続く 100 周年に向けて新たな歴史を積み上げ、何とか次世代の方々に引き継いで頂けるよう努力して参りたいと思います。何卒、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

さて、74 名もの犠牲者が出た昨年の 8.20 広島豪雨災害は、未だ記憶に新しいところですが、今年の 1 月に開催した支部総会においても、「同じような災害が廿日市市のどこで起きてもおかしくない。」と、危機感を抱くメンバーの一言がとても象徴的でした。

土砂災害で 50 名を超える犠牲者が出たのは、昭和 58 年 7 月に島根県浜田市などで発生した豪雨災害以来です。都市計画法や森林法に基づく開発基準が適用される以前に、山裾に形成された市街地や集落には、防災設備などの対策が施されていない地域が多く存在しており、常に、豪雨災害などの危険と背中合わせの状態にあり、頻発するゲリラ豪雨に対するハード整備が追い付いていないのが現状です。そして、阪神淡路大震災や東日本大震災での大きな犠牲を戒めとして、その経験を踏まえたハードやソフトの防災・減災対策が進められていますが、今後益々、老朽化

夢から感動へーハートテクノロジー



本 社 〒135-0064 東京都江東区青海 2-4-24
TEL 03-6361-5450
中国支店 〒732-0052 広島市東区光町 2-6-24
TEL 082-205-5050



総合建設コンサルタント
株式会社 ヒロコ

代表取締役社長 下 花 眞 二

本社 〒734-0011
広島市南区宇品海岸三丁目13番28号
TEL (082) 250-8515 (代表)

明るく伸びる



株式会社 伏 光 組

代表取締役 伏 見 光 暁

本社 〒734-0013 広島市南区出島 1 丁目 3 3 番 6 1 号
TEL (082) 253-6161 FAX (082) 254-4581
(支店) 松江 (営業所) 三次

が進展する公共施設の総合的な維持管理・更新のあり方も含め、大きな課題が私たち土木技術者に突きつけられているのも事実です。

私たちの暮らしを支える社会資本を健全な状態で機能させ続けるためには、私たち土木技術者の果たすべき役割は、益々、重要になってきており、中でも、将来を担う若手技術者の育成は、業界を挙げての大きな課題となっています。そして、若手技術者の育成は、産・官・学のどれが欠けても成り立ちませんが、一体となって取り組むことによって解決できる課題でもあります。

地元広島県では、本学科の卒業生の多くが地域を支える技術者となっており、これまで以上に、本学からより多くの土木系技術者の卵が輩出されることを切に願っております。学科設立 50 周年、誠におめでとうございます。



土木系学科設立 50 周年 記念に寄せて

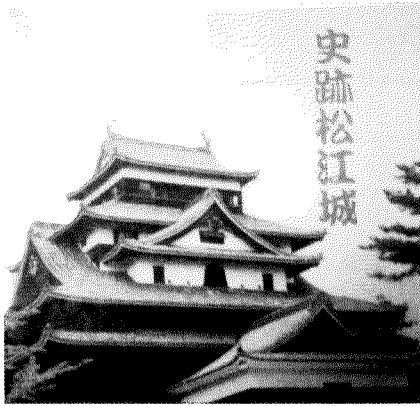
広土会 島根支部 5 期生
田辺 安男

土木系学科設立 50 周年おめでとうございます。
私たち 5 期生が広島工業大学土木工学科に入学したのは、昭和 44 年であり、大学（学科）としては、出来て間もない新生大学でありました。今では、土木系学科が設立 50 周年を迎え、堂々たる歴史を備えた風格ある大学（学科）に成長したことを誇りに思うとともに、卒業生の一人として、今日まで土木系学科を支えてこられた皆様に深甚なる感謝を申し上げる次第であります。

さて、松江城天守閣の国宝指定が平成 27 年 7 月 8 日に正式に決まりました。堀尾吉晴が関ヶ原の戦いで徳川家康から出雲・隠岐 24 万石に封じて 1611 年に築造しました。天守閣の構造は地下 1 階、4 重 5 層の望楼型天守で、高さ約 30m（木造部 22.4m）、鳥が翼を広げたような屋根の形から「千鳥城」の別名で親しまれています。明治に入ると、松江城は、陸軍省が、管理することとなりましたが、1873 年に国が出した廃城令で民間に払い下げて、天守閣は取り壊しの危機にさらされました。その時に天守閣は 180 円で落札されましたが、地元民の尽力で買戻した。間一発で松江城が残されました。その後、地元民らで保存し、天守の昭和の大修理が行われ、松江観光のシンボルとして今も親しまれています。天守を含む城山一帯は、国史跡に指定されています。

天守が国宝に指定されている城郭は、松本城（長野県）、犬山城（愛知県）、彦根城（滋賀県）、姫路城（兵庫県）、松江城（島根県）の計 5 か所。江戸時代の天守を残す城郭は、松江城を含め 12 か所あり、国宝以外は全て重要文化財に指定されています。

この機会に、ぜひとも松江城と堀川遊覧などで、松江藩時代のロマンに暮ってください。



（国宝）

現在天守の比較一覧表（◎国家、○重要文化財）				
区分	名称	所在地	建築年代と順位	構造
◎	松本城	長野県松本市	1 慶長 3(1598)	5 階 6 階
◎	犬山城	愛知県犬山市	2 慶長 6(1601)	3 階 4 階
◎	彦根城	滋賀県彦根市	3 慶長 11(1606)	3 階 3 階
◎	姫路城	兵庫県姫路市	4 慶長 14(1609)	5 階 6 階
◎	松江城	島根県松江市	5 慶長 16(1611)	4 階 5 階
○	丸亀城	福井県坂井市	6 慶長 18(1613)	2 階 3 階
○	丸亀城	香川県丸亀市	7 万治 3(1660)	3 階 3 階
○	備中松山城	岡山県高梁市	8 天和 3(1683)	2 階 2 階
○	宇和島城	愛媛県宇和島市	9 寛文 5(1665)	3 階 3 階
○	高知城	高知県高知市	10 延享 4(1747)	4 階 6 階
○	弘前城	青森県弘前市	11 文化 7(1810)	3 階 3 階
○	伊予松山城	愛媛県松山市	12 安政 5(1853)	3 階 3 階

在 学 生 寄 稿



土木の出会いと学生生活

工学系研究科 建設工学専攻 2 年
三角 彰

このたびは、土木学科設立 50 周年おめでとうございます。在校生として、大変うれしく感じています。

私は、6 年前に都市デザイン工学科の 1 期生として入学しました。現在は大学院に進学し、研究を行っています。今回は、私の土木との出会い・大学での生活について書かせて頂こうと思います。

土木系学科に進学したのは、幼いころの出会いにあります。私の実家は、レストランを経営していました。

お昼になると土木会社の社長さん・作業員さんがよく来られ、遊んでもらっていました。バックホーやダンプカーで道路を整備する姿を見ながら、土木の仕事に憧れを持つようになりました。そんなこともあり、都市デザイン工学科に進学することを決めました。

大学生活は先生方の丁寧な指導のもと多くのことを学んでいます。座学だけでなく見学会など工夫された講義は、イメージがし易く、楽しく受講することができました。大学院では、学会発表やシンポジウムへの参加する機会が増

えました。新しい知識を得ることができ、とても有意義な生活となっています。

土木を学びたい学生にとって、広島工業大学の土木系学科はとても良い環境だと思います。手厚いサポートのもと、安心して将来について考えることのできる学科であると感じました。これから先も、このような教育環境であってほしいです。私も、来年度からは土木系学科の OB として、恥じない行動をしていきたいと思っています。

これから土木系学科が 100 周年と続いていけるように願っています。



土木系学科設立 50 周年に 寄せて

都市デザイン工学科 4 年次
倉西 涼太

土木系学科設立 50 周年記念ということに耳にし、まずその歴史の長さに驚きました。1964 年東京オリンピックの翌年に設立したということであり、2020 年東京オリンピック開催準備が進む現在からは当時がどのような時代であったのか想像もつきません。工大の校舎も現在とは大きく異なっているのではないのでしょうか。以前 OB の方とお話した際に、昔グラウンドであった場所に新校舎ができていることなどで盛り上がりました。

我々が学生は普段、卒業生との直接の交流はあまりないのですが、昨年の夏に多くの当学科学生が志願し参加したインターンシップにて、建設業界をはじめ各界で活躍される先輩方との交流の機会を得ることができました。その実習では、今後卒業し就職する業界を見て・経験し明確なビジョンを得ることに役立てられたと思います。いままで漠然としたイメージでしかなかった土木を、実際の業務として経験することにより、イメージよりも具現化した将来のビジョンとして捉えるようになった学生も多く存在していると思います。

私もインターンシップを通して土木への考え方が変わった一人です。昨年夏、建設コンサルタントにて実習を行っていた際、広島土砂災害関連の業務を体験しました。作業着を着て山を登り、土砂崩れの源頭部調査や災害規模調査を行いました。大衆に知られる仕事ではないけれど、真っ先に現地にいき復興の礎となる、いぶし銀のような良さを知りました。

それまでは進路・就職に対し具体的な希望を持っていませんでした。しかし、この実習を契機に、この仕事をやってみたい、この人たちと仕事をしてみたいという思いを持つようになり、現在建設コンサルタント就職を見据え、勉学に励んでいます。

就職活動真最中という我々ですが、皆入学時とは違った面持ち、心構えて仕事とはなにか、土木とはなにかという思いを内に秘めていると思います。この内面の進化こそが工大土木四年間で得ることのできた、かけがえのない物であると感じています。この想いを胸に来年度から先輩方のような立派な土木技術者となるよう精進します。

事務局 だより

広土会の活動は会員の会費納入で運営されています。会費未納あるいは期限切れの方はこの点を御理解いただき、会費の納入をよろしくお願い致します。

広土会のホームページのアドレスは下記のとおりです。土木系学科設立 50 周年記念事業等を閲覧するには、パスワードが必要となっております。入力間違いのないようお願いいたします。

また、広土会新聞は会員の情報誌です。今年度は、8 期生ー 40 周年、18 期生ー 30 周年、28 期生ー 20 周年、38 期生ー 10 周年を迎えます。記念祝賀会等を行われる場合には事務局にご連絡をいただければご協力いたします。

皆様からの情報、ご意見、ご感想をお待ちしております。FAX、またはメールでご連絡下さい。

HPアドレス: <http://www.kodokai1968.jp/> パスワード: kodokai2014
FAX (082) 921-8976 E-mail: kodokai@cc.it-hiroshima.ac.jp

道路建設設計

建設大臣認定擁壁

PCボックスカルバート ザ・ウォール (H=5.0m)



本社 〒733-0822 広島市西区庚午中 1-19-23 (082) 507-2757 (代)
東広島営業所 〒739-2312 東広島市豊栄町別府 270 (082) 432-4132 (代)
福山支店 〒720-0805 福山市御門町 2-5-39 (084) 925-8855 (代)
山口支店 〒754-0002 山口県山口市小郡下郷 1130 (083) 973-3533 (代)
山陰支店 〒695-0003 島根県江津市松川町下河戸 188 (0855) 55-0124 (代)
本店 〒699-5133 島根県益田市神田町 615 (0856) 25-2380 (代)
工場 広島・江津・益田



ヒューマン・コンシャス。
それがわたしたちの原点です。

MASUOKA
Architectural Contractors Inc.



株式会社 増岡組

広島本店 / 〒730-0045 広島市中区鶴見町 4 番 25 号 TEL 082-504-5050
呉本店 / 〒737-0051 呉市中央 1 丁目 6 番 28 号 TEL 0823-21-1441
<http://www.masuoka-g.co.jp/>



大地と大地に明日を築く・・・

AOKI

総合建設業



株式会社 青木組

本社 〒722-0035 広島県尾道市土堂二丁目八番十四号(青木ビル)
TEL (0848) 23-3131 FAX (0848) 22-8371
東京本店 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 3-4-2
K D X 茅場町ビル
TEL (03) 3665-9621 FAX (03) 3665-9622
営業所 福山・岡山・川崎・東北

洋ようと 伸びのびと 夢をかたちに



洋伸建設株式会社

代表取締役 木森 卓史

本社 〒730-0012 広島市中区上八丁堀 4-1 TEL (082) 511-4520
ア・バンビュ・グランドタワー 7F FAX (082) 511-4521
営業所 福山・呉・廿日市・山口・四国・九州
事業所 黒瀬
ホームページ <http://www.yoshin-const.co.jp/>